

NEWS

Relief and Recovery Support

三菱商事の復興支援のかたち

三菱商事は、2011年の東日本大震災発生直後から復興支援活動を実施。2012年に「公益財団法人三菱商事復興支援財団」(以下、財団)を設立し、被災地域の状況に合わせ、さまざまな活動に取り組んできました。今後も、財団とともに、被災地のニーズに合わせた復興支援活動を継続していきます。

NEWS
1

35億円の追加拠出決定

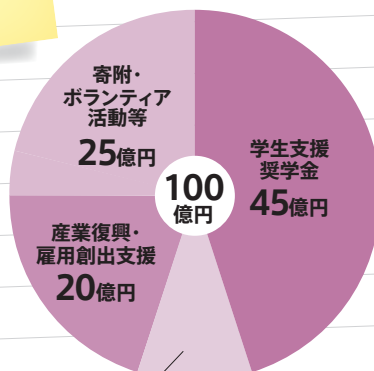
2015年4月、2015年度から5年間分の活動資金として、財団に対して合計35億円の追加拠出を決定しました。これにより、復興支援活動への拠出総額は135億円となります。

三菱商事は、2011年4月に4年間で総額100億円の「三菱商事 東日本大震災復興支援基金」を創設。さらに2012年3月には財団を設立し、学生支

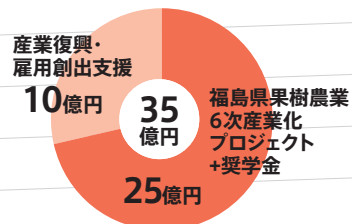
援奨学金および復興支援助成金を復興支援基金から継承するとともに、被災地の産業復興・雇用創出支援に取り組んできました。

2015年度からは、従来の支援活動を継続するとともに、新たに福島県郡山市で「果樹農業6次産業化プロジェクト」(詳細はP22~23ご参照)を推進していきます。

三菱商事 東日本大震災
復興支援基金
(2011~2014年度)



三菱商事復興支援財団
(2015年度~)



NEWS
2

会津の魅力をも復興の突破口に



産業復興・雇用創出支援先紹介

会津中央乳業 会津魂で新たなブランドを

会津中央乳業は、会津産原乳の豊かな味わいが自慢の「べこの乳」が主力商品。地元のみならず首都圏にも販路を広げていましたが、震災により状況が一変し、現在も県外への出荷は震災前の3割にとどまっています。

牛乳だけでの再起は難しい。そこで突破口として考えられたのが、ナチュラルチーズの開発でした。一からチーズ作りを勉強し、同社を愛する取引先や地元客の期待に背中を押され試行錯誤した結果、これならやれると確信。財団の支援もあり、チーズ製造設備の導入が実現しました。今後、酪農家や販売先などと協力し、会津ブランドを育てていくことで、地域産業の復興を目指します。



左から営業部の二瓶孝文リーダー、二瓶孝也社長

1日2,000本の牛乳を製造・販売



IIIE “働きたい” 思いと伝統をつなぐ



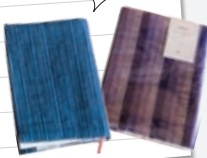
谷津拓郎社長 (右)



「3.11」を逆にして「IIIE」。「3.11」をひっくり返して新たな幸せをつくる」という願いを社名に込めた

ストールのほかに、祝儀袋やブックカバーなど会津木綿の風合いを活かした、日常使いができるおしゃれ雑貨を販売。ネット販売も!

インターネット販売はこちら
iie-aizu.jp



丈夫な会津木綿を毎日の生活に

約400年の間、会津の人々の暮らしを支えてきた会津木綿。その伝統素材と、被災者の働きたいという思いをつなげるために設立されたのが会津木綿を中心とした商品を製造するIIIEです。

「何もすることがないのがつらい」、「地元におしゃれな雑貨がない」という仮設住宅で暮らす人々の声がヒントとなり、谷津拓郎社長が2013年3月に同社を設立。会津木綿の風合いと丈夫さを活かしたストールは、インターネット販売やカタログ通販などで注目されています。

会社が強くなることが、地域が強くなることにつながる——。IIIEは、財団の支援も活用し、福島を築く事業の先駆けとなることを目指しています。

NEWS
3

6次産業化プロジェクト始動!

Future
From
Fukushima.
ふくしまから
はじめよう。

～地域と連携し、果樹農業の新たなモデルを創出～



2015年2月、財団は郡山市と連携協定を結び、福島の果樹を使った「6次産業化プロジェクト」を始動しました。

同プロジェクトは、財団が郡山市に最大生産能力2万5,000ℓ／年の醸造所を建設。地元農家が生産する桃や梨、リンゴ、ブドウなどを年間30～50トン調達し、リキュールとワインを製造・販売するものです。果樹の生産から加工・販売まで一体的に運営する新たな事業モデル(右図)を構築し、農産物や地元ブランドの付加価値を高めていきます。

醸造所は今秋に稼働開始予定。当面はリキュールとワイン各6,000ℓを生産し、将来的には売上高1億円を目指します。福島県内での地産地消から始め、三菱商事グループのネットワークを活かし、販路を拡大していきます。

6次産業化モデルの確立へ

✓1次産業(生産)

生食用果実の利活用を図るとともに、新たにワイン用ブドウの生産農家を育成する

✕

✓2次産業(加工)

地元の果実を原料とした加工商品(ワイン・リキュールなど)を製造する

✕

✓3次産業(販売)

醸造された加工商品の販路を開拓する

||

✓6次産業

生産・加工・販売を一体化し、農産物や地元ブランドの付加価値を高め、雇用創出や地域経済の活性化を促進する

強力な助っ人で心強い

農家が新分野へチャレンジするいいきっかけ。新しい農業のかたちを創る、願ってもないプロジェクトです。イノベーションにつなげたいと思います。

事業の全体像



品川万里 郡山市長



連携協定



農業復興
6次化支援



原料
調達

醸造委託

**新しい道を開く
起爆剤に**

若い世代に引き継いでいくためにも、福島の農業に新しい道を開き起爆剤になればうれしいです。



タグを組む地元ブドウ栽培農家の橋本さんご夫婦

地元果樹
農家
(桃・リンゴ・
梨・ブドウ)

醸造所
(新たに法人を
設立予定)

将来的な
6次産業化の担い手

スペシャリストからの応援メッセージ



株式会社中川ワイン
代表取締役
中川誠一郎 氏

郡山のプロジェクは、復興と新たな夢への挑戦だと思います。中川ワインは、海外のワイナリーと連携してこのプロジェクトを心から応援し、協力を惜しみません。



『京都吉兆』嵐山本店
総料理長
徳岡邦夫 氏

日本の歴史・風土が生んだ日本料理には、日本産の酒が最適です。郡山のプロジェクが、和食にピッタリの最高のワイン造りを実現できるよう、大いに期待し、応援していきたいと思ひます。



国際ソムリエ協会
会長
田崎真也 氏

今回のプロジェクトは、福島支援の一環としての、福島産果実を使った醸造事業と伺いました。近い将来、この素晴らしいワインを多くの方々にサービスできる日を楽しみにしています。